

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

| | | | |
|--|---|--------------|----------------|
| 博士の専攻分野の名称 Degree | 博 士 (教育学) | 氏名 Author | AZAM MD. GOLAM |
| 学位授与の要件 | 学位規則第 4 条第①・2 項該当 | | |
| 論 文 題 目 Title of Dissertation | A Study on Reformation Process of Qawmi Madrasas in Bangladesh: Focus on English Subject | | |
| 論文審査担当者 Dissertation Committee Member | 主 査 Committee Chair 准教授 日下部達哉 印 Seal | | |
| 審査委員 Committee | 教授 石田洋子 | | |
| 審査委員 Committee | 教授 吉田和浩 | | |
| 審査委員 Committee | 准教授 牧貴愛 | | |
| 審査委員 Committee | 教授 外川昌彦 (東京外国語大学) | | |
| 〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review | | | |
| <p>当該学位論文は、近年バングラデシュで増加しつつあるコウミマドラサという無認可のイスラーム宗教学校における一般科目、とりわけ英語科の改革に関し、その背景、要因、さらに改革の影響といった点について、比較教育学的に追及している。</p> <p>コウミマドラサは、無認可宗教校として国の管轄に入っておらず、コウミマドラサ教育委員会が試験や学位授与について管理をしているが、その運営、教育内容の在り方には多様性がある。本研究では、国内東部に多い改革派と南部に多い復古派にわけて分析を行い、委員会が置かれている首都ダッカも分析対象としている。本研究では、2012 年に、コウミマドラサ教育委員会が実施した英語科カリキュラム改革が、いかに現地のコウミマドラサにおいて受け止められたかについて、質的量的データが収集された。</p> <p>論文は、全 5 章で構成されている。第 1 章において本研究の目的、先行研究と問題の所在、調査地概要、論文の構成を述べ、英語教育の全国的な高まりと、対象各地域の特徴が述べられた。第 2 章では、改革派における英語教育改革が盛んである現状と、対照的に復古派において改革意識に乏しい現状が析出された。その背景を分析すると、コウミマドラサと政府との交渉の結果、ダウラハディスというコウミマドラサの学位と、国内のイスラーム学系大学の修士号とを同等にみなすという法律が 2018 年に定められたことにより、コウミマドラサには、相応の人材を集め、育成していかななくてはならない圧力がかかることになった。そのため、より多くの学生を抱え、多額の授業料もとる改革派マドラサでは、一般教科改革に拍車がかかることとなったことが明らかになった。第 3 章においてはそうした改革の結果、バングラデシュの教育界にいかなるインパクトがあったか分析をした。そこでは、筆者がマドラサの生徒たちに英語のテストを行い、改革派において、復古派マドラサより点数が高い結果が出ていた。ここから実際に労働市場で評価されうる人材育成を指向する改革派と、ピールと呼ばれる聖者の存在によって凝集性を高めようとする復古派では、全く異なる発展論理をもつことが明らかにされた。第 4 章では、そうした改革の動きが、教師、生徒、保護者らにいかん受け止められているか、インタビュー調査から明らかにされた。第 5 章の結論部では、コウミマドラサがもはや、クラシカルな宗教教育機</p> | | | |

関ではなくなってきたおり、一般教科の改革も行い、育成する人材の質を、宗教的価値のみならず、市場価値もつけるような教育を施す機関となってきたことが述べられた。その一方で、それらの改革は、コウミマドラサ生徒を増やし、彼らに宗教色の強い教育も与えることを意味するため、結果として、宗教教育の独自性を守ることにも貢献しており、改革を経ても、社会的、政治的なポジショニングは変わらないことが述べられた。

本論文は、以下の諸点が独創性の高い点として評価された。(1)あまり研究のない、無認可のコウミマドラサの、今日的動きである一般教科の改革研究に着手、現状を明らかにしたこと、(2)比較分析の単位を改革派と復古派とに峻別し、国内のコウミマドラサの地域的多様性、相違性を描くよう尽力し、イスラーム国家としてのバングラデシュにおける先端的なコウミマドラサの改革動向を活写し、他国と比較するうえでもきわめて重要な資料・研究が残されたこと、などである。

申請者はこれまで、査読つき論文3編、査読無し論文2編、国際学会・会議での発表5編を公表した。

以上、審査の結果、本審査委員会委員は、本論文が著者に博士(教育学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。